

“津久井観音霊場巡り” その4

4日目 (H19, 2007/06/22 金) バス&歩き

自宅 (am10:41 出発) →バス三ヶ木 (11:19 着) →バス相模湖駅 (11:38 着) —1.36km—第20番; 慈眼寺—3.75km—第21番; 観福寺—2.1km—第26番; 青蓮寺—2.52km—藤野駅→(JR)→高尾駅→ウォーキング—8.67km→自宅 (pm16:37 着) 合計 18.4km

初めて梅雨らしい小雨が朝から降り続く中を、谷ヶ原からバスに乗り、三ヶ木で相模湖駅行きのバスに乗り換えて観音霊場巡りに出発する。今日のバスは、三日目と違いピクニックランド前を通り、いつもの津久井街道を相模湖に向かう路線だった。相模湖ダムの手前あたりから気分が悪くなってきて、途中下車しようかと迷っている内にどうにか相模湖駅にたどり着く。降りた途端にめまいがするので、飲み物を買って、しばらく休んでから最初の札所に向かうことにした。

駅の隣に桂北公民館があり、斬新なデザインに惹かれ、取り敢えず写真に撮る。三日目に覚えた線路沿いの小道をたどっていくと、駅のホームが切れたあたりに跨線橋があるのを見つけた。苦勞して線路越えを探したのが馬鹿みたいな所にあるではないか。それにしても向こうの道路からは全く見えない変な所にある。

20番札所の“慈眼寺”は、明治新政府の神仏希釈がよく分かる造りである。新政府は明治元年「神仏判然のご沙汰」という太政官布告を出した結果、各地の神仏がこのような形で分離されていったのだろう。神官は国家公務員になり、第二次大戦後以降になって法人に移行した歴史をよく反映して、見事に仲良く並んでいる

第20番 慈眼寺 (与瀬) 観世音菩薩

金峰山慈眼寺 (じげんじ)。高野山真言宗。御本尊様は薬師如来。天正年間 (1573~1591) 頼源阿闍梨の創立によるもので、明治維新に至るまで蔵王権現の別当であった。明治五年神仏分祀の国令に依り、与瀬神社と分離する。大正六年与瀬町の大火で堂宇が全焼、昭和十七年に本堂を再建した。昭和四十三年中央高速道路用地として境内一部を提供、寺のすぐ下を中央道が通っている。



↑神社

お寺↑

中央高速道路の建設に伴い、苦心の参道となったようだが、高速道路の真上にあるのに思いがけずの立派さに圧倒される。相模湖の眺望も一番の場所にあるお寺だった。ここでも隣の神社への参拝は遠慮して次の札所を目指す。

ここからは、旧甲州路の細い旧道をたどって、与瀬宿の面影を残す中を、次の吉野宿を目指す。途中、日本一まずいラーメン屋の看板あたりで現在の甲州街道に合流するが、又すぐに旧道に上っていく。

旧道でもここからは広くなっており、住宅もかなり建っている。旧甲州路の面影は殆ど感じられない。所々に旧甲州路の標識があり、これがないと殆ど気づくこともないかもしれない。



観音の慈眼衆生の
法の船弥陀の浄土へ
寄せる川波
かんのんのじげんしゅじょうの
のりのふねみだのじょうどへ
よせるかわなみ

何度か地図を間違えながら、ようやく 21 番札所“観福寺”にたどり着く。相模湖 IC のすぐ傍の割には静かな谷間にそのお寺はあった。お参りを済ますと下から中学生らしき学生が何組か登ってくる。うっそうとした林間の登り道だが、元気に挨拶を残してすれ違ってくれる。一人で登ってくる中学生に、勝瀬橋への道を聞いたら 2 通りの道を教えてくれた。結局、後の少し遠回りのような道に行くことにする。幸い、相模湖 IC 入口の真上を通る道だった。いつも利用するインターチェンジ入口を真上から眺めるのも奇妙に思え、一枚記念撮影した。

娑婆世界此処を吉野の
観福寺悟れば浄土
住めば極楽
しゃばせかいここをよしのの
かんぶくじさとればじょうど
すめばごくらく



第 21 番 観福寺 (矢部) 千手観世音菩薩
御嶽山観福寺 (かんぶくじ)。高野山真言宗。大永 2 年 (1522)、空尊僧正が観世音菩薩を靈感し開山と成る。幾度も無住の時代があったが旧甲州街道沿いに位置し、長く「谷部」(やべ)の観音様」として親しまれて来た。御本尊阿弥陀如来像と共に大日如来像、弘法大師像の三尊 (いずれも江戸中期木造) を安置する。現在は本堂の新築建立が成り、6 年前のご開帳時と境内は一変している。

始めて渡る勝瀬橋の立派なことや、壊さずに残された旧勝瀬橋の風情に見とれながら、自動車学校の方に歩いていく。この通りから見える所に 26 番



札所“青蓮寺”はあった。かなり年代を感じさせる山門をくぐると、一組の夫婦を見守る立派な観音像が右手に遷座していた。本堂と観音堂に読経し、本日予定の 3 寺巡りはこうして終了した。



青蓮の開く明日の
日に連れて心の月は
西に過ぎ行く
しょうれんのひらくあしたの
ひにつれてこころのつきは
にしへすぎゆく

第 26 番 青蓮寺 (日蓮) 聖観世音菩薩
金胤山青蓮寺 (せいれんじ)。高野山真言宗。御本尊は阿弥陀如来。約 700 年前の開山と言われる関東三十六ヶ院の一院。相模風土記に依れば寺禄 13 石 5 斗 5 升、末寺 5ヶ寺、50 人扶持で小田原北条に出仕したと伝えられる。江戸時代津久井代官、守屋左太夫の菩提寺。現在寺の兼務は第 39 番札所の東林寺和尚が行なっている。

26 番札所“青蓮寺”のすぐ横に安普請の食堂があったので入ってみると、これが懐かしい相模湖自動車学校の上の食堂だった。定食ならすぐ出来るとの事なので、遅めのお昼をとることにする。42,3 年前に此の自動車学校に通って以来のことを話すと、自動車学校は昭和 42 年に出来たとのことで、食堂は 10 年前に建替えたとのこと。おばあさんに覚えはないが、きっと 40 数年前にもこの人の定食を戴いたのだろう。道路が立派になり、すぐ傍に日蓮橋が掛かった



以外は、此のあたりの景色は余り変わっていない気がする。懐かしい自動車学校はやけに静まりかえっており、教習車は一台も走っていなかった。それにしても日蓮橋から眺める景色も、天気の良い日に眺め直したいものである。

バス通りを外れ、三叉路から一気に日蓮大橋にショートカットする。途中で消えてなくなりそうな不安な道を下っていくと、うっそうとした森が途切れていきなりゴルフ練習場が見えてきた。1, 2 階合わせて 14 打席と小さいが、天然芝の 50~75 ヤード程度のアプローチを練習するにはもってこいの練習場だった。一人練習している人がいたが、今度ここで練習してみたいとしばらく眺める。

日蓮大橋のたもとに出てみると、橋の上からの相模湖の眺めも素晴らしい所である。少し小雨に煙っているのが残念だが、藤野も此のあたりはお店も近くていい環境だなと大塚さんのことをチラッと思った。



食堂横の日蓮橋からのながめ

藤野駅から高尾に電車で戻り、南口から住宅街を適当に歩いて城山方向に向かった。途中、拓殖大学の前を通り抜け、約 9 キロ弱（1 時間 15 分）で帰りついた。相模湖でのバス酔いが無ければ程よい一日コースであった。

（津久井観音霊場巡りーその 4 終わり）